



< 目次 >

1. ごあいさつ	西尾張ブロック新代表	伊藤 善之
2. 平成21年度西尾張ブロック 総会	事務局長	河村 文雄
3. 平成21年度あいち防災リーダー会総会	前代表	倉知 彰治
4. 「昔の地図や絵、写真からハザードを考える」	名古屋大学大学院教授	福和 伸夫
5. リバーサイドフェスティバル	一宮支部	矢野 和宏
6. 平成21年度尾張水防・防災訓練	犬山支部	高木 優
// 尾張水防訓練に参加して	一宮支部	矢野 和宏
7. 「私と防災」	稲沢支部	川村 荘一朗
8. 「北名古屋防災ボランティアとリーダー会」	北名古屋支部	小川 時子
9. 「防災に思う」	扶桑支部	上原佳代子
10. 第2回名古屋港防災施設見学会に参加して		参加者有志
11. 家具固定方法講習会		広報部

1、ごあいさつ

西尾張ブロック新代表 伊藤 善之



会員の皆様、常日頃は防災活動に積極的にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

今年度より、ブロック代表を務めさせていただくことになりました伊藤善之です。よろしくお願ひ申し上げます。

今年、伊勢湾台風50周年の節目の年であり、各地でいろいろなイベントがあります。昨年は8月末にゲリラ豪雨があり、岡崎・名古屋・一宮などで被害がありました。災害は突然襲ってきます。

地震や風水害に備えて、減災活動を続けましょう。

さて、ブロックでは今年度各支部で活動されるイベント一つに対し、人の支援や資金の支援を実施することになりました。5月には一宮のリバーサイドフェスティバル、犬山の水防訓練に対し支援を行いました。10月には稲沢の稲沢まつり、江南の江南まつりでの支援を予定しています。その他の支部でも、申し入れがあれば支援を行いますのでご遠慮なくお申し出ください。

会員の皆様が一つでも多くのイベントや行事に参加され、楽しく活動されることを心より祈念します。



2、平成21年度 APLA西尾張ブロック総会 事務局長 河村文雄

平成21年3月29日(日)午後1時半より、江南市民文化会館にて、西尾張ブロック定期総会が開催されました。

江南市生産産業部 津田部長、江南市消防署 大脇署長、あいち防災リーダー会 早川会長の3名を来賓に招き、参加者45名、委任状61名で総会が成立しました。

平成20年度の活動・会計報告、新年度の役員選出、平成21年度の事業計画・予算が審議され、新役員の挨拶がありました。

また、総会後の研修会として、早川会長よりご自身の東海学区での自主防災会長としての取り組み(我々の活動に取り込めるたくさんのアイデア)を紹介していただきました。

引き続き、伊藤ブロック新代表から、リーダー会としてNPOについて研究した結果の報告を、NPO説明会として紹介していただきました。

今後も、APLA通信などを中心に、本部やブロックの情報を、会員の皆さんにタイムリーにお届けできるよう努力しますので、皆さんの自己研鑽にお役立てください



<平成21年度役員>

代 表	伊藤 善之(一宮)
副 代 表	川村 荘一郎(稲沢)
事務局長	河村 文雄(一宮)
会 計	安田 裕典(稲沢)
広報部長	森 千代子(岩倉)
研修部長	尾関 博(江南)
会計監査	高木 優(犬山)
会計監査	有村 和人(春日)

前ブロック代表あいさつ

倉知 彰治

一言お礼のご挨拶を述べさせていただきます。この度2年間に亘り、西尾張ブロック代表並びに本部副会長の大役を無事にこなし、退任いたしました。これもひとえに会員皆様のご協力とご支援のおかげと、深く感謝御礼を申し上げます。

これからも引き続き視点をかえて、あいち防災リーダー会の益々の充実発展の為、又地域防災力の向上のために、渾身の努力を傾ける覚悟でございます。どうか会員の皆様宜しくお願いいたします。まずはお礼のご挨拶まで。

3、平成21年度 あいち防災リーダー会総会

倉知 彰治

平成21年4月26日(日)午後1時半より名古屋NPOセンター12階会議室において第7回あいち防災リーダー会の定期総会が開催されました。



名古屋大学大学院 福和教授、愛知県防災局危機管理課から熊田課長、加藤課長補佐、萩原主査、気象台上田予報官の皆様を来賓として迎え、会員57名の参加がありました。

平成20年度の事業・決算報告、会則13条の一部改正、21年度役員の選出があり、質疑応答後満場一致で承認されました。このあと、21年度の事業計画、予算を審議し、承認されて閉会しました。

また、太田元会長よりAPLA旗と、各ブロックにも会旗を寄贈していただきました。

総会後には研修会として、福和教授の基調講演「防災リーダーに望む・・・減災を楽しむ行動に誘う」が開催され、参加者は熱心に聴き入っていました。



<平成21年度役員>

会 長	早川 澄 男	(名古屋・代表)
副 会 長	加藤智恵子	(東尾張・代表)
副 会 長	伊 藤 善 之	(西尾張・代表)
副 会 長	福 田 学	(海 部・代表)
副 会 長	伊 藤 彰	(知 多・代表)
副 会 長	中 根 輝 彦	(西三河・代表)
副 会 長	大久保郁夫	(東三河・代表)
事務局長	青 木 八 束	(東尾張)
会 計	浜 田 文	(名古屋)
広報部長	田 中 由 幸	(名古屋)
研修部長	尾 関 博	(西尾張)
会計監査	櫻 井 衛	(知 多)
会計監査	天 野 優 子	(西三河)

来賓ご挨拶

防災局防災危機管理課 課長 **熊田清文氏**

この4月から、課長になりました熊田清文でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

皆様方には、日頃から防災行政に多大なるご指導をいただいておりますこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

皆様方は、平成15年にこのあいち防災リーダー会を立ち上げられたと伺っています。会員皆様方の相互の連携強化と、地域防災力の向上ということでご活躍いただいていると考えています。このことに対して、私共は力強く受け止めております。ありがとうございます。

そして更に、普段の活動として、高校とか中学校・小学校の防災教育につきまして、啓発活動にご尽力いただいておりますことにも、お礼を申し上げたいと思います。





ここ数年、全国で地震とか風水害の災害が起きています。昨年度は私どもの愛知県でも岡崎とか幸田町の方を中心として被害がありました。県としましては災害対策本部を立ち上げて、災害対策を実施した所でございます。今年は先程の資料にもあるご紹介がありましたが、伊勢湾台風襲来50年目の年になっております。8月23日に伊勢湾台風50年のつどいを開催させていただきたいと考えております。皆様方のご参加を、是非いただきたいと思っております。そして、これらの行事を通じて、防災意識の高揚と教訓の継承をして参りたいと思っております。

災害は大きくなればなるほど自助、共助、公助の連携が必要になるため、防災協働社会の形成と推進に、力をつくしてまいりたいと考えています。皆様方の、更なるご協力をお願いしたいと思っています。そして、地域の防災リーダーとして、自主防災組織の方々の活性化など一層のご尽力をお願い申し上げたいと思っております。

最後に、あいち防災リーダーの会が更に発展される事を祈念申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。本日はおめでとうございます。 (文責 倉知彰治)

4、防災よもやま話 24 「昔の地図や絵、写真からハザードを考える」

名古屋大学大学院教授 福和伸夫

皆さんこんにちは。年度が新しく変わって如何お過ごしですか？

さて、今回は、昔の地図や絵、絵葉書、写真について考えてみたいと思います。昔の地図や絵、写真を集めましょう

ご覧ください。これは、一昔前にはあちこちで見られた沼田での田植えの光景です。胸まで浸かって田植えをしています。私たちの地域でも、このような光景はつい最近まであったと思います。あちこちで、田船や田ケタを見る機会があります。是非、こういった写真を残しておきたいものです。もしも皆さんの中でこのような写真をお持ちの方がいらっしゃったら是非提供ください。そのときには、写真を撮った場所もお知らせください。今は宅地になっている場所も、ちょっと前はこんな場所だった所が多かったのではないのでしょうか。



海部地区や、旧碧海郡、豊川の周辺などには、こういった風景が広がっていたと想像されます。

この写真を見れば、今の若者達も、ドッキリすると思います。ハザードマップの上にこういった過去の地形を重ねてみると、災害危険度を実感することができます。

(毎日 jp、胸までつかる泥田で田植え 1954年6月 新潟

<http://showa.mainichi.jp/news/1961/06/post-ceaf.html>)



左の写真は、戦前の大須観音を写した写真です。大須観音の向こうには建物は無く、林や田畑が広がっていることが分かります。

長崎大学附属図書館「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」

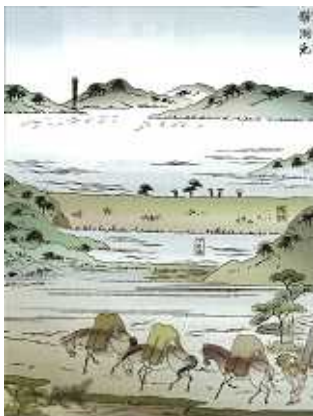
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/target.php?id=1385>

こういった様子は、昔の地図を見ると良く理解できます。

右の図は、明治時代の名古屋の市街を示した地図です。

図のように名古屋のまちは、北は名古屋城、南は熱田神宮、西は堀川辺り、東は千種区辺りを境としていたことが分かります。まさしく、洪積台地である熱田台地に町が留まっていました。

地図だけではよく分からないという方には図会や浮世絵が便利です。この地域には、尾張名所図会という江戸時代末期のガイドブックが残されています。



左の図は尾張名所図会に描かれた猫洞池の絵で、本山辺りから北の方を見た情景です。上下に2つの池がありその周辺には何も無かったことがわかります。

現在は、下池は埋め立てられ、上池もずっと小さくなっています。埋め立てた場所には高級な住宅がぎっしり立ち並んでいます。

名古屋市が配布しているハザードマップを見ると、埋め立てた場所では液状化危険度が高いことが分かります。

尾張名所図会・猫洞池（名古屋都市センター・NewsLetter 2005No.66、http://www.nui.or.jp/news_letter/17/pdf/vol66_8.PDFより）

地震のハザードやリスクには、地盤の改変が大きく影響します。私たちの住む場所の過去を知ることで、災害の危険度を実感することができます。過去の地図、名所図会や浮世絵、絵葉書や昔の写真、地名の由来などを調べれば、我が家の災害危険度をわが事として考えることができると思います。

最近、私の研究室でも、昔の資料を一杯集めています。皆さんも、金山の高層ビルに入っている名古屋都市センターに行くと、名古屋のまちの移り変わりが分かりやすく展示されています。また、資料コーナーには、昔の地図や写真などの資料がたくさんあります。たとえ



ば、「明治・昭和 東海都市地図」(柏書房)を調べると、1889年と1971年の地図を比較することができます。

図書館や市町村の役場に行って、昔の地図や市史や町史を調べるのも良いと思います。

5、リバーサイドフェスティバル

一宮支部 矢野和宏



いちのみや支部では、5月3日から5日までリバーサイドフェスティバルという一宮市の行事の中で啓発活動を行ってきました。

この行事は一宮タワーパーク内で毎年行なわれます。リーダー会いちのみや支部としても、ここ数年来参加しています。

3日間にわたり30名近くの会員の方が参加し、啓発活動のかたわら、消防署の行なう高所作業車や放水訓練のお手伝い、市役所 危機管理室の行なう起震車へ乗る人の整理・参加呼びかけなども行なっております。

今年は、延べ20万人の来場者があり啓発活動にも力が入りました。乾パンなどの配布物も午前中で無くなってしまふ始末でうれしい悲鳴でした。来年度も同じ時期に行なわれますので、ブロック会員の方もお手伝いをよろしくお願いします。

6、21年度尾張水防・防災訓練

犬山支部 高木 優

と き 5月31日(日)午前8時半から10時半まで

ところ 犬山市大字木津地先 木曾川右岸 木曾川犬山緑地公園

を会場として、愛知県尾張水害予防組合水防団(一宮・犬山・江南・稲沢・岩倉・大口・扶桑の各水防団)、愛知県一宮建設事務所、犬山市の主催によって、前夜からの強い雨で訓練会場がぬかるみ、大変悪条件のなかで開催実施されました。災害発生時には、こんな状況になるという実体験の経験の場でもあったと思います。

「自然災害」それは「地震災害」だけではありません。水による災害も考えておかなければなりません。今年は、伊勢湾台風(昭和34年9月26日)から半世紀ということで、尾張地方にも多大な被害をもたらしたこの伊勢湾台風を、風化させることなく後世に伝承していくための訓練であると認識しています。

「あいち防災リーダー会西尾張ブロック」では、今回の「防災啓発活動」を西尾張ブロックの一事業と位置づけて、訓練開催の当日は、西尾張ブロックから伊藤善之代表、倉知彰治前代表、河村文雄事務局長、そして江南支部から望月晴夫代表はじめ2人の参加をいただきました。





「あいち防災リーダー会犬山」からは、長谷川三千男代表はじめ10人が参加しました。

< 訓練参加団体 >

主催団体はじめ避難訓練参加自主防災会を含めて、19団体 579人。

その他、一般での参加者が50人、総勢630人規模での訓練でした。

< あいち防災リーダー会犬山の訓練内容 >

- 1、伊勢湾台風の被災状況写真パネル展示の案内、説明
- 2、起震車（起動は消防署員1人）乗車・降車案内、説明
- 3、住宅用火災警報器の説明及び設置案内
- 4、防災啓発コーナー

- ・自主防災組織について説明案内
- ・耐震診断、耐震改修について説明案内
- ・家具の転倒防止について説明案内
- ・非常持出袋、備蓄品について展示説明、
- ・防災啓発パンフレットの配布説明

ブース全体での訓練者総数は300人、なかでも起震車には長蛇の列でした。



< 私見 > 50年前のあの日を思い出しながら参加しました。それは、父親が4～5mの竹の先端にカマを結び付けて、庭の柿の木に風の方向を見ながら向けて立てて結びつけて、風を追い払うのだと話していたことを、何の根拠もない神頼み的なことを……。

尾張水防訓練に参加して

一宮支部 矢野和宏



5月31日に犬山市木曾川河川敷で行なわれた尾張水防防災訓練に消防団員として参加してきました。その日は朝からあいにくの雨模様。雨合羽を着ての活動でした。

写真の訓練は「せき板工法」。20人の人員で、200あまりの土のうで堰を作る工法です。

尾張水害予防組合は5市2町からなる組合で、毎年この時期に訓練が行なわれます。

私は消防団員として毎年参加しています。

写真には写っていませんが、今年は犬山のリーダー会の方が啓発ブースにて伊勢湾台風水害写真のパネル展示を行い、熱心に啓発を行なっておられました。

今年は伊勢湾台風から50年の年に当たります。一宮でも昨年8月に豪雨で302件の床上被害。岡崎では水害にて人命が亡くなった被害が出ています。地震もですが、水害も甚大な被害をもたらします。各地の防災啓発の際にも、水害の怖さを訴えていきたいと思ひます。また、リーダー会でもこのような土のう作りの体験をしてみてもはどうでしょうか？



7、「私と防災」

稲沢支部 川村莊一朗

私の住む稲沢市は、平成2年から「地震対策基礎調査」を実施した。内容は地盤調査、被害想定など多岐にわたった。当時の名古屋大学・名誉教授飯田汲事氏を代表とした「稲沢市地震防災研究会」が結成され、私も市の担当者として調査に関わってきた。

市の広報にて、その内容を防災啓発として連載し、最終回の平成7年1月15日号が各家庭に配布された直後の1月17日、あの阪神・淡路大震災が発生した。

当時の担当者としては、とても他人事とは思えず、自費で神戸や淡路島へ複数回出かけて、現地の悲惨さや復興状況を見聞してきた。

その時の思いが、あいち防災カレッジ受講につながり、私の防災啓発活動の原動力になっている。

もちろん、水害被災地での「ドロかきボランティア」にも、参加して汗を流してきた。「現地を知らないで災害を語るな」との思いがあったから。

閑話休題、私は30人から80人の聴衆に「防災の話」をしている。そういう時は相手方の年齢、職業、肩書き、立場などに意を用いることが大切であると思っている。聞いてくれる人は、小学生、公務員、経営者層、老人会、自主防災会、子育てママさん、婦人会 etc.

今後も、話の創意工夫をし、枕はタイムリーな話題から、正確な情報提供を心がけるなど、啓発活動は常に新鮮な気持ちで、取り組んでいきたい。

8、「北名古屋防災ボランティアとリーダー会」北名古屋支部 小川 時子

平成18年3月に、師勝町と西春町が合併して北名古屋市になった。リーダー会会員十数名。

師勝町は合併以前より防災カレッジ修了者が防災ボランティアを立ち上げ、行政や消防署の応援を受けながらも養成講座を開講するまでになっていた。消防署にAEDの指導をお願いして普通救命の講習を、行政の方にはわが町の防災の現状を聞き勉強。DIG や支援センターのシミュレーションもボランティア同士で行うなど多岐にわたっていた。

西春町は災害サポーター制度をつくり、いざという時にどんな手助けができるかを登録するものだった。無線、船舶、看護師、介護士、運転(自二)などが個人で、企業では救援物資の提供及び運搬、コンビニには生活必需品の販売維持、ガソリンスタンドにはトイレ提供、建築会社には復興の援助などそれぞれの立場で協力する体制だった。防災訓練の参加が必須だった。

お互いに発足時にはこういう違いがあり、合併後もかなりの温度差があり双方に戸惑いがあった。しかし防災という共通のテーマで3年という月日がいろいろの解決の道を作ってくれた。全員が気持ちだけの人ではなく本当にボランティア精神の旺盛な人たちが主になってやってきたからといえる。



養成講座も多年にわたり開催していて、防災ボランティアに入る方には受講してもらっている。市内5箇所で行う防災訓練も講座の中に組み入れて昨年はD I Gに参加してもらった。

単独で町内会からD I Gの依頼も入るようになり住民の関心も高まりつつある。中学の夏休み福祉体験にもD I Gをして、自分の住んでいるところの特徴をつかんでもらった。北名古屋市が自主防災に行う講座に私たちのD I Gの依頼が入り、昨年12月には9地域、9班の3時間レベルのD I Gを行った。準備も大変だったがリーダー会の早川会長の大地図の展示とD I Gの重要性のお話で色をそえていただき大成功に終わった。また会長さんから「行政の方とこんなにうまくいっているところは珍しい」との予想しない嬉しいお言葉をいただき、会員の大きな自信につながった。

防災カレッジ卒業生がリーダー会に入り、その上地域で防災ボランティアとして活動するという教えを守っている。リーダー会の会員は防災ボランティアなので、今年から合体した形にして、メンバーでなければいけないものとはともかく、勉強したり参加できるものは、どんどん勧めていきたいと思っている。



9、「防災に思う」

扶桑支部 上原佳代子

新緑の候 風薫る好季節になりました。

阪神淡路大震災では、多くの尊い命がなくなりました。家の倒壊や家具の転倒による圧死でした。

その後も中越地震、能登半島地震、岩手宮城内陸地震と日本列島は地震王国となり、必ず来るべき地震から命を守るために、最低限のことはしておきたいと思います。家具の転倒防止、先日も機会を得て、福和伸夫教授の講義を受けました。相変わらずの楽しいお話でした。自治体には人手や予算に限界があり、すべてに対して対応する難しさを思いました。

今年は伊勢湾台風から50年。台風が直撃した9月26日、私も当時名古屋に住んでおりまして災害に遭遇し、大切な友を亡くしました。当時、押入の上まであっという間に水没し、その年のお正月にはたたみは高く買えず、布団・着物すべて消失し、命からがら避難した記憶が思いだされます。

文明が進めば進むほど、天然の暴威による災害が激烈の度を増すという事実である。良い地盤に住む、地震に強い家に住む、家具を止める、助け合う、実践する大切さ、視覚・聴覚障害への支援も大切かと思えます。

我が家の近所は高齢者の方々です。両隣の助け合いで、毎月1日は171の電話の方法を覚えておくこと、活動はなかなかできませんが、時間が許す限り参加したいと思っています。

10、第2回名古屋港防災施設見学会に参加して

5月21日(木)午前10時から
防災船ポートオブナゴヤ2に乗り
海の上から、名古屋港の防災施設を見学した。
午後は、港防災センターに移動し、
伊勢湾台風の展示説明を受け、
施設内で体験学習の後、
講習室で研修をした。



1、「行ってみてよかった 港湾施設見学」

昭和最大級の台風、今年は伊勢湾台風が襲来してから50年の歳月が経過しています。東海地方を襲った伊勢湾台風の教訓を活かし、名古屋港管理組合、港湾施設等(水門・関門・護岸堤防潮壁)津波防災から津波、高潮の防災体制の強化と、近時に発生が予想される東海地震への取り組み、耐震強化岸壁の整備、緊急物資等輸送ルートの確保、津波対策等、21世紀にふさわしい環境と防災を備えた海岸防災事業が進んでいるとのこと。

乗船41名、今回で2回目とのこと、このような研修ができたことを嬉しく思いました。

(M・S記)

2、「ポートオブナゴヤ2に乗せてもらって」

名古屋港から離れて住む我々は、津波や、伊勢湾台風のような木材被害にはよそ事と思っていた。その50年前を教訓に、貯木場を移転したり、水門、防潮堤なども耐震強化岸壁となりいろんな対策を勉強できた。

裏から見る名港トリトン、海面より50mも上にあり、車がたくさん走っている橋が薄っぺらに見えた。大地震では大丈夫だろうかとの思いが残った。

世界中の不景気のせいで、輸出待ちの車の数も少ないとか。コンピュータで、あの大きなコンテナがクレーンで動くのを目の当たりにできて、やはり日本一の名古屋港であると実感できた。

船は揺れもせず、酔い止めのクスリがムダになったみたいで、楽しめました。

この豪華さは、きっとVIPとか限られた人のみが乗れるのですが、こういう機会がもらえて感謝しています。ありがとうございました。(T・O記)

3、「研修に参加して」

○災害対策として

伊勢湾台風に遭った体験を見学して

- ・為す術が全くない状態から、亡くなった方と助かった方の違い。
- ・紙一重で大被害に遭った地域と、大被害から免れた地域の違い。
- ・親から教わった事の一つに、台風は悪いことばかりかとの問いに、地面（特に涸れた土地）に水を潤すがあった。
- ・昔の地形と現在の地形で、変わったことはないか。

○災害に遭遇する前の準備

- ・完璧はないが、津波対策のための施設・設備の充実。

○名古屋港の水の汚れ

- ・川上から流れてくる水による汚染。
- ・草・木・花を育てて浄化する方法。
（川と海の対策の違い）
- ・生物を放流して浄化する方法。
- ・砂、炭、砂利、腐葉土、小石等による浄化。



以上、沢山の勉強をさせていただき、沢山の疑問

がわきました。自分の心構えとして、一滴の水も大切に、できるだけきれいな水のままで海にお返りする。自分だけの水ではない尊さを反省させていただき切っ掛けになり、立派な船と、紳士的な対応に出会い、心洗われる研修会とさせていただきました。

今度参加させていただく時は、名古屋港の水が透き通って、真っ白い水しぶきに出会えることを楽しみにしています。本当にありがとうございました。（K・K記）

4、「名古屋港防災施設見学会に参加して」

おしゃれで素敵なインテリア、丁寧な説明、GPS、名古屋港湾施設会場研修をめちゃくちゃ楽しませていただきありがとうございました。これも早川会長さまはじめ鳥山様他、リーダー会の日ごろの活動の成果と、心よりお礼申し上げます。

名港は、世界貿易の窓口としての大掛かりな設備や機能が、経済低迷の中で少々あくびをしているように見えました。

港防災センターでの、伊勢湾台風関連の研修は、当時小学4年生の私の記憶を呼び覚まし、災害に強いまちづくりへの強い思いと、行動するリーダー会への期待が膨らみました。我がまちの減災に向けて ガンバロー!! （K・Y記）



1 1、家具固定方法の講習会

6月13日(土)午後1時半から、港防災センター3階 講習室で「命を守るために、家具固定のすすめ」と題した講習会が開催されました。

講師は、実践的に活動されている尾張旭防災リーダー会の皆さんで、誰でもできる家具転倒防止の手順について詳しい説明を受けたあと、実際に道具を使って試してみました。

壁の下地の見つけ方、突っ張り棒の正しい取り付け方、アイストラップを使用した固定方法など、とても役立つ実践的内容の講習会でした。

60名の参加者の内、すでに自宅での家具の転倒防止対策を済ませている人も多くいましたが、知識と技を深めることができ、有意義な会となりました。



掲 示 板

「アレルギーっ子への防災対策」7月11日(土)午前10時 港防災センター
参加希望者は、早川会長へご連絡ください。(090-2610-0357)

「伊勢湾台風50年の集い」8月23日(日)午後2時 自由参加
愛知芸術文化センター 2階大ホール

「第2回あいち防災リーダー塾」受講生募集

平成21年9月から11月までの4日間 午前10時から午後4時半まで
受講生をお誘いください。詳しくは事務局河村へ(090-8551-4729)

編集後記

21年度はじめてのAPLA通信、やっと発行にこぎつけました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今号でご紹介の通り、防災リーダー会では、会員の皆様のスキルアップに役立つ内容を取り入れた講習会や研修会など、数多くの催しが計画されています。是非多くの方々に参加していただき、ともに知識や技術の向上に努めていきたいと思っております。(森)